

後期研修プログラム

研修プログラムの目標としている医師像

広く、深く、心地よく、診療できる医師を目指します。

① 広く



当院は病床数 150 床の病院にもかかわらず、年間 3,000 件程度の救急搬送件数があります。その中で救急・総合診療科は、一次～三次救急まで重症度に関わらず、内科領域の疾患全般を扱っています。また内科救急疾患の 8 割が救急・総合診療科に入院しています。入院患者は年間 1,000 件以上あり、救急から集中治療、一般入院まで同じ上級医により一貫した指導をうけながら診療が行えます。さらには生活指導やワクチン外来などプライマリケアに必要な経験も積めます。心不全・胃潰瘍・脳梗塞といったコモンな病気のみならず、

原因不明なため他県から来院される患者さんも少なくありませんので、比較的稀な疾患まで経験できます。

(例としてリンパ球性下垂体炎・ヘルペス脳炎・Wernicke 脳症・脳脊髄液蛋白沈着病・神経核内封入体病・神経変性疾患(PD・PSP・MSA・ALS)・GBS/Bickerstaff 脳幹脳炎・Osmotic demyelination syndrome・Paroxysmal non-kinesigenic dystonia・肺胞出血・サルコイドーシス・結核症・肺カルシニア・CMV 肺炎・侵襲性アスペルギルス症・多発性骨髄腫・MDS・本態性血小板増多症・悪性リンパ腫・HES・myeloid sarcoma・後天性血友病・Castleman 病・POEMS 症候群・膠原病(RA・PMR・SLE・SjS・MCTD・SSc・各種血管炎)・家族性地中海熱・RPGN・ネフローゼ症候群・腎周囲膿瘍・膀胱自然破裂・SMV 血栓症・副腎不全・激症型 I 型糖尿病・インスリン自己抗体症候群・壊血病・壊疽性膿皮症・壊疽性膿瘍・胃蜂窩織炎・静脈硬化性大腸炎・感染性心内膜炎・心外膜炎)

② 深く



救急診療から入院診療、外来診療まで全てにおいてチーム体制で濃厚なフィードバックを全例で受けられるシステムが整っています。いわゆる屋根瓦方式で身近な上級医が常にベッドサイドで教えてくれるながら、さらには入院患者全例の教育回診・救急車カルテ全例レビュー・退院サマリチェックは医長が行っていますので、二重、三重のフィードバックが受けられます。また救急、集中治療、プライマリケア、膠原病、感染症、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、心臓内科、内分泌内科、画像診断においては専門的知識を有することができるように工夫しています。興味深い入院/外来患者に関する文献的考察をメーリングリストで通知しますので(月平均 10 件以上)自動的に深い診療姿勢が身につきますが、自らも診療を深める姿勢を求めます。

髄腔穿刺、胸腔穿刺、胸腔トロッカー留置・管理、人工呼吸管理、腹腔穿刺、関節穿刺、中心静脈路確保、動脈ライン確保、人工透析・CHDF、血漿交換、皮膚生検、骨髄穿刺/生検、リンパ節穿刺/生検、膿瘍穿刺/切開排膿といった基本的な手技・技術についても習得します。

③ 心地よく



1人で患者を抱え込む必要性がありません。皆で楽しく勉強できます。救急患者をそのまま連続して入院診療することで申し送りも不要でスムーズでストレスのない診療が可能となります。

一方で専門医による緊急心カテ、緊急内視鏡、緊急手術の24時間対応があるので安心です。

総合診療科全体でバーベキューやカニ会をするなど科内の仲は非常によく、医局が一つなので他科の先生とも相談しやすい雰囲気です。

最終的にはどんなコンサルトでも自信を持って心地よく受け入れられる医師を目指してもらいます。

当直

約月4回（当直明けの帰宅 可）

診療科独自の病床数

約50床

研修終了後の主な進路

他院総合診療科・内科・救急科・膠原病科・内分泌科・産婦人科、当院スタッフ医師

勉強会やカンファレンスの開催曜日・時間とその概要

・朝の勉強会（8時から9時まで）月曜日～土曜日

日替わりで講義形式の勉強会、症例検討会、抄読会を行っています。

例		
月	講義	動悸へのアプローチ 中枢神経解剖学～高次脳機能～
火	症例検討会	Forestier's 病 ベンゾジアゼピン離脱
水	ドクターG 検討会	ドクターG として名高い酒見医師による症例検討会と教育回診（～10：30）
木	症例検討会	石灰沈着性腱板炎 子宮留膿腫
金	講義	HIV 検査について テトラサイクリンの使い方
土	抄読会	敗血症患者に EGDT は有用か 糖尿病患者におけるアスピリン一次予防の意義

・大リーガー医回診

海外の著名な医師である大リーガー医を招聘し不定期に勉強会を行っています。英語のプレゼンの訓練も兼ねています。

・音羽病院総合診療科との合同カンファレンス 月1回

月1回音羽病院総合診療科と合同でカンファレンスを実施し興味深い症例を互いにディスカッションし切磋琢磨しています。

・GIM カンファレンス 月1回

月1回関西の総合診療科が一堂に会する名物カンファです。当院も定期的に症例を発表し、積極的に参加しています。

・専門家との合同カンファレンス

神経内科とリウマチ膠原病、呼吸器内科に関しては月1回づつその分野のトップクラスの専門家とカンファレンスをしています。放射線科・消化器科・産婦人科の専門医とのカンファレンス・勉強会も適宜行っており、高いレベルで各分野の診療を行うことを可能としています。

・ハンズオン勉強会

体感できる勉強会として毎年、人工呼吸器実践勉強会、摂食・嚥下勉強会、心臓超音波勉強会、腹部超音波勉強会なども行っています。



具体的な研修内容紹介

救急診療、集中治療、一般病棟管理、外来診療の全てを並行しながら継続診療することが当院の研修の特徴です。このシステムにより小規模な病院においても相当数の症例が経験できます。また、断片的な知識習得ではなく、多視的・全人的な診療センスを身に着けることが可能となります。

～8時	病棟プレ回診を行い、受け持ち患者さんの状態を把握します。 受け持ち患者数は平均 5-10 名ですが重症度によって変動します。
8時～9時	朝の勉強会を行います。 後期研修医 2 年目からは勉強会の発表もしてもらいます。
9時～	スタッフによる教育回診、以後病棟業務をします。 入院患者数は年間 1,000 例以上あり、それを 3 チームに振り分けます。 各チーム平均 1 例/日の新患者のマネージメントを勉強できます。 週に 2 コマ程度救急外来当番となり、救急車の対応をします。 救急車は原則全例受け入れますので、分野を問わず勉強になります。 内科救急で入院となる場合、8 割は自分が主治医で診療を継続します。 外科救急は外科医師の指導のもと診療を行います。
17時～	1 日の出来事を報告しあい、今後の診療方針を決定する「まとめ」を行います。

その他

研修を支える充実した資料

過去の勉強会の資料はすべてクラウドを介して共有しており、参考資料もあわせる
とすでに 4 万件を超えるファイル数となっており、膨大なデータベースが構築されて
います。各種ガイドラインも充実しています。さらに熱病サンフォード・ガイドライ
ンの配布、UpToDate 加入サービスもあります。



自由度の高い研修

希望者は当院の整形外科・麻酔科・心臓内科・消化器センターにローテーションが可能です。

当院救急は内科救急が 4 分の 3 を占めています。内科救急だけではなく、多発外傷を含み救急診療を広く学
びたくなった場合には関連病院（音羽病院）の救急救命センターもしくは京都府立医大救急部にもローテーシ
ョンが可能です。

その他には関連病院（音羽病院）の総合診療科・小児科・産婦人科へのローテーションが可能です。

EBM の実践から EBM の構築まで



医学書籍への執筆機会が多いことも当院の特徴で、後期研修医には分担執筆の機会が与えられます。また、EBM の実践に加え臨床研究に興味をもった場合には統計・検定の基礎も学べ、論文執筆を行う際には native speaker による英文添削もありますので、本格的な英文論文にチャレンジできます。

新規採用

毎年数名の新規採用を予定しています。見学・面接は適宜していますのでホームページからお申し込み下さい。当院ではやる気のある後期研修医を最優先して採用していますが、採用決定は随時行っており、一斉面接や一斉試験は行っておりませんので、採用枠に余裕がある年度前半でのお問い合わせをお勧めいたします。

<http://www.rakuwa.or.jp/recruit/resident.html>

<http://www.rakuwa.or.jp/recruit/resident-senior-kengaku.html>

GIM 家庭医療後期研修プログラムについては下記 URL を参照下さい。

<http://www.rakuwa.or.jp/recruit/resident-maruta-family.html>

